

国道 228 号 福島町松浦～松前町白神間

防災対策に関する技術検討会

議事概要

■ 検討会日時：令和 5 年 3 月 13 日（月） 13 時 00 分～14 時 30 分

【議題】

- ・ 前回までの技術検討会の概要
- ・ 斜面評価の総括
- ・ 対応方針（案）
- ・ 対応方針（案）のまとめ
- ・ 事業の効果等について

【議事概要】

（前回までの技術検討会の概要、斜面評価の総括について）

○事務局より、前回までの技術検討会概要及び斜面評価の総括について説明し、委員より以下のとおりご助言いただいた。

- ・ 現地調査結果に基づく現況斜面の評価、現道の安全性についての評価は妥当と考えられる。
- ・ 現況斜面の評価、現道の安全性評価に基づいた、斜面評価総括としての防災対策範囲設定は妥当と考えられる。

（対応方針（案）について）

○事務局より、これまで審議してきた「現道斜面評価、防災対策範囲設定」の妥当性等を踏まえた対策方針（案）を提示し、今回の審議において委員より以下のとおりご助言いただいた。

- ・ 対応方針・対策案について、事前に「道路に求める機能」及び「地域に配慮すべき事項」について地域意見聴取を行っており、その結果が検討の視点に取り入れられていることは、妥当と考えられる。

- ・別線ルートを検討に当たっては、現道交通の切り替えに伴う沿線集落の不便さを出来るだけ緩和できるよう、集落から別線ルートへの接続方法についても検討を進めるべきである。
- ・いずれの別線ルート案も、トンネル工が事業全体のリスクに占める割合が大きいと考えられる。鉄道廃線跡地を活用した別線ルート案については、地質や湧水等のリスク把握の面から、既設鉄道トンネルが先進導坑的な役割を果たすと考えられ、事業リスクの設定上、大きなメリットとなると考える。
- ・環境への影響について、地形改変の観点のほか、残土処理の観点を含めて評価していることは、重金属含有土が発生するリスクを考慮しても、妥当と考える。
- ・対策方針（案）については、道路機能の確実性・安全性の向上、環境への影響や工事中の影響、経済性、事業期間等を総合的に審議した結果、別線ルートのうち、「鉄道廃線跡地を活用した別線ルート」にて防災対策を実施することが妥当と考えられる。
- ・また、防災事業は定量的な整備効果を示しづらいついで、比較的規模の大きな防災事業であることから事業の効果について説明を受けたが、類似事例を参考に、指標の設定や定量的効果の算出に取り組んだことは評価できる。
- ・当該区間は、北海道全体の道路ネットワークを考えた時にも重要な路線であることを認識し、早期の整備を進めることが重要である。
- ・今後は、トンネル構造等の詳細検討に必要となる、地形・地質の詳細把握（調査）を行い、地域への影響、自然環境への影響等に配慮しながら、可能な限り事業費の縮減・事業期間の短縮を図った計画を進めることが重要である。

以上